

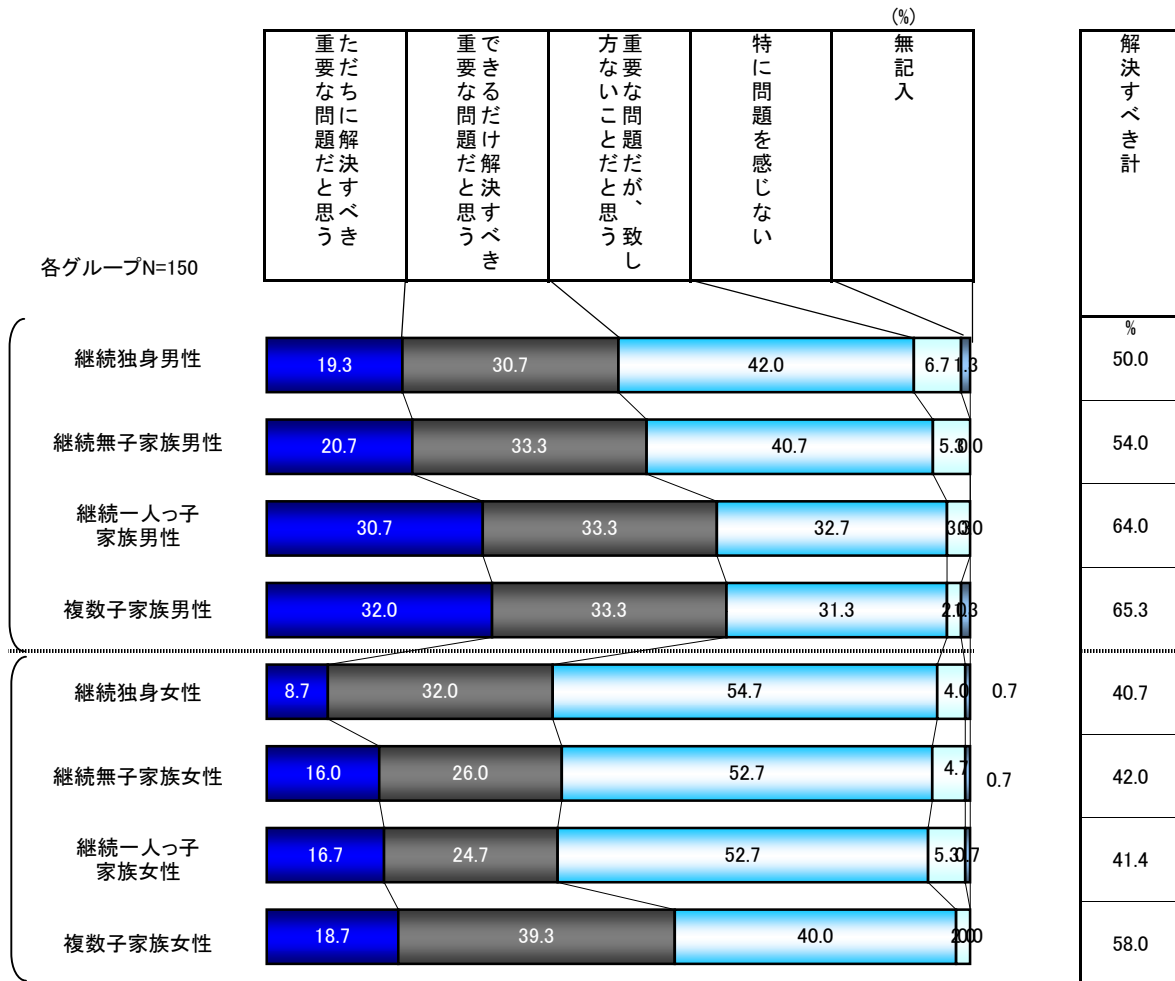
6. 少子化についての考え方

6-1. 少子化問題の捉え方(Q33)

女性より男性の方が「直ちに解決すべき」と重大視する傾向が強い。

グループ別では、男女とも【複数子家族】が最も重大視しており、【継続独身】との間には顕著な差が見られる。

図表6-1：少子化問題の捉え方(単数回答)(基数:全体)



6-2. 少子化対策への意見(Q34)

どのグループも、何よりも「経済的負担軽減のための取り組みの充実」を望んでいることに変わりはないが、その度合いは【複数子家族】で強い。

図表6-2: 少子化対策への意見(複数回答)(基数:全体)

	経済的負担軽減のため取り組みを充実すべき	地域の子育て支援サービスを充実すべき	仕事と子育て両立の取り組みを充実すべき	子育てに対する支援体制の整備を進めるべき	安定した家庭のため就労の支援を進めるべき	男性の育児参加の働き方を進めるべき	家庭を築くことの大切さを伝えていくべき	結婚や出産そのものを奨励すべきである	対策は行わなくてよい	無記入
各グループN=150										
継続独身男性	59.3	39.3	31.3	40.7	35.3	33.3	26.7	30.7	7.3	1.3
継続無子家族男性	66.0	46.7	34.7	44.0	40.7	26.7	15.3	28.7	6.0	0.7
継続一人っ子家族男性	69.3	54.0	42.0	45.3	38.7	30.0	30.7	21.3	2.0	0.0
複数子家族男性	73.3	59.3	35.3	48.0	43.3	28.0	32.0	29.3	2.0	0.0
継続独身女性	64.0	62.0	57.3	45.3	37.3	38.0	14.0	18.0	0.0	0.7
継続無子家族女性	60.7	62.7	47.3	49.3	34.0	31.3	22.7	16.0	3.3	2.0
継続一人っ子家族女性	70.0	63.3	52.7	46.7	36.0	31.3	28.7	12.0	1.3	0.0
複数子家族女性	71.3	62.0	51.3	50.7	29.3	28.7	22.7	18.7	0.7	0.0